

作成日 2015年 6月 1日

改訂日 2016年 2月 29日

## 安全データシート

### 1. 化学物質等及び会社情報

製品名 : 真空ポンプオイル  
社内製品コード : VP005, VP006  
会社名 : アサダ株式会社  
住所 : 愛知県犬山市大字羽黒新田字一本松1の1  
担当部門 : 商品開発部  
担当者 : 西尾健治  
電話番号 : 052-911-7165  
緊急連絡電話番号 : 052-911-7165 (月曜日から金曜日の8:30~17:25)  
FAX番号 : 052-914-2062  
メールアドレス : sales@asada.co.jp  
推奨用途及び使用上の制限 : 真空ポンプ

### 2. 危険有害性の要約

#### GHS分類

物理化学的危険性 : すべて、区分外・分類できない・分類対象外のいずれかである。  
健康に対する有害性 : すべて、区分外・分類できない・分類対象外のいずれかである。  
環境に対する有害性 : すべて、区分外・分類できない・分類対象外のいずれかである。

#### GHSラベル表示

絵表示 : なし  
注意喚起語 : 警告  
危険有害性情報 : 飲み込むと有害のおそれ、吸入（ミスト）すると有害のおそれ、皮膚刺激のおそれ  
注意書き : 安全対策

- ・目に入れないこと。飲み込まないこと。皮膚に触れないこと。
- ・ミストを吸入しないこと。子供の手が届かない場所に保管すること。

#### 応急措置

- ・目に入った場合：清浄な水で洗眼し、医師の診断を受ける。
- ・飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないで直ちに医師の診断を受ける。
- ・皮膚に付着した場合：多量の水と石けんで洗うこと。
- ・ミストを吸入した場合：新鮮な空気の場合に移動し、保温して安静を保ち医師の診断を受ける。

#### 保管

- ・直射日光を避け、涼しく換気の良い場所に保管すること。
- ・容器を密閉し、保管場所に施錠すること。
- ・子供の手の届かない場所に保管すること。

廃棄

- ・法令に従い適正に処理すること。
- ・不明な場合は購入先に相談し処理すること。

3. 組成及び成分情報

単一製品・混合物の区別	:	単一製品
化学名又は一般名	:	石油系炭化水素
化学特性（化学式）	:	特定できない
成分及び含有量	:	石油系炭化水素 100質量%
CAS No.	:	不明
危険有害成分	:	化学物質管理促進法 非該当 労働安全衛生法（第57条の2 通知対象物） 鉱油 毒物劇物取締法 非該当

4. 応急処置

目に入った場合	:	直ちに清浄な水で15分以上洗う。 コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外す。 痛みやかゆみが残ったりする場合は、医師の診断を受ける。
吸入した場合	:	空気の新鮮な場所に移し、呼吸がしやすい姿勢で休息させる。 身体を毛布などで覆い、保温して安静を保ち、医師の診断を受ける。
皮膚に付着した場合	:	水と石けんで付着した部分を十分洗う。 皮膚に炎症がある場合、医師の診断を受ける。
飲み込んだ場合	:	無理に吐かせないで、直ちに医師の診断を受ける。 口の中が汚染されている場合は、水で十分洗う。
急性症状及び遅発性症状の もっとも重要な兆候及び症状	:	目に入ると炎症を起こす可能性がある。 ミストを吸入すると肺炎や肺水腫を引き起こす可能性がある。 皮膚に触れると炎症を起こす可能性がある。 誤飲した場合、下痢、嘔吐、肺への障害が発生する可能性がある。

5. 火災時の措置

消化剤	:	霧状の強化液、泡、粉末又は炭酸ガス消化剤が有効である。
使ってはならない消化剤	:	棒状の水を用いてはならない。火災を拡大し危険な場合がある。
特有の危険有害性	:	一酸化炭素・硫黄化合物・その他正体不明の有機化合物や無機化合物 がオイルに混合した場合、オイルが燃焼する恐れがある。 燃焼の際は、一酸化炭素、亜硫酸ガス等が生成される。
特有の消火方法	:	火元への燃焼源を絶つ。周囲の設備等に散水して冷却する。
消火を行う者の保護	:	消火作業は保護メガネ、保護衣、状況によっては呼吸保護具を着用して 風上から行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、 保護具及び緊急時措置	:	皮膚に触れたり眼に入る可能性がある場合は保護具を着用する。ミスト が発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。
環境に対する注意事項	:	土壌の汚染、水質汚濁に繋がるので可能な限り回収する。河川・下水道 などに排出されないよう注意する。環境中に放出してはならない。
封じ込め及び浄化の方法	:	周囲の着火源を取り除く。

及び機材

少量の場合：土砂、ウエス等で吸着させて空容器に回収し。更にウエスなどで完全に拭き取る。

大量の場合：盛土で囲って拡散防止をはかってから、掃き集めて空容器に回収後、安全な場所にて処理する。処理後は大量の水で洗いながす。

この場合、濃厚排水が河川等の公共水路に流入しない様に注意する。

海上の場合：オイルフェンスを展開して拡散を防止し、吸収マットなどで吸い取る。薬剤を用いる場合は国土交通省令・環境省令で定める技術上の基準に適合したものでなければならない。

二次災害の防止策

： 全ての発火源を速やかに取り除く（近傍での喫煙、火花や火災の禁止）  
関係箇所に通報し応援を求める。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

： 指定数量以上の量を取扱う場合は、法で定められた基準に満足する製造所、貯蔵所、取扱所で行う。火花、炎、高温体等との接触を避けると共に、みだりに蒸気を発散させないこと。皮膚に触れたり、眼に入る可能性のある場合は保護具を着用する。静電気対策を行い、作業衣、靴等も静電気対策がされた物を用いる。危険物が残存している機械設備などを修理又は加工する場合は、安全な場所において危険物を完全に除去してから行う。室内で作業を行う場合は、十分な換気を行う。  
ミストが発生する場合、呼吸器具等を使用してミストを吸入しないこと。

安全取扱注意事項

： ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質との接触はしないよう注意する。

保管

技術的対策

： 保管場所で使用する電気器具は防爆構造とし、器具類は接地する。  
容器は必ず密栓すること。

保管条件

： 危険物の表示をして保管する。  
換気の良い場所に保管する。  
直射日光を避け保管する。  
酸化剤から離して保管する。  
施錠してから保管すること。

8. 曝露防止および保護措置

管理濃度

： 規定なし

許容濃度

： ACGIH TLV-TWA 5mg/m<sup>3</sup>  
ACGIH TLV-STEL 3mg/m<sup>3</sup>

設備対策

： ミストが発生する場合は発生源の密閉化、又は排気装置を設ける。  
取扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置する。

保護具

呼吸用保護具

： 適切な呼吸器保護具を着用すること。

手の保護具

： 必要に応じて耐油性保護手袋を着用する。

眼の保護具

： 飛沫が飛ぶ場合には普通型眼鏡を着用する。

皮膚及び身体の保護具

： 必要に応じて適切な保護衣、保護面を使用すること。

## 9. 物理的および化学的性質

## 外観

(物理的状态、形状、色)	: 透明の液体
臭い	: 僅かな臭気
融点・凝固点	: データなし
沸点	: データなし
引火点	: 220℃
爆発限界	: データなし
蒸気圧	: データなし
蒸気密度	: データなし
溶解度	: 水に不溶
n-オクタノール/水分配係数	: データなし
自然発火温度	: データなし
その他のデータ	
動粘度	: 41.4～50.6mm <sup>2</sup> /s (40℃)
流動点	: -12℃

## 10. 安定性および反応性

化学的安定性	: 常温で安定。
危険有害反応可能性	: 強酸化剤との接触を避ける。
避けるべき条件	: 混合接触危険物質との接触を避ける。
混合接触危険物質	: ハロゲン類、強酸類、アルカリ類、酸化性物質
危険有害な分解生成物	: 燃焼の際は、一酸化炭素が生成される可能性がある。

## 11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: 区分外 ラットLD50 > 5000 mg/kg
急性毒性 (経皮)	: 区分外 ラットLD50 > 5000 mg/kg
急性毒性 (吸入)	: 区分外 ラットLD50 > 5 mg/L
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 分類できない 長時間または繰り返し接触した場合、脱脂による皮膚刺激を起こす可能性があるため注意すること。この情報だけでは分類できない。
目に対する重篤な損傷性 又は眼刺激性	: 分類できない ウサギを用いた実験により、軽度の刺激性が生じると記述されている報告がある。詳細不明につき、この情報だけでは分類できない。
呼吸器感作性又は皮膚感作性	: 分類できない データなし
生殖細胞変異原性	: 分類できない データなし
発がん性	: 分類できない データなし
生殖毒性	: 分類できない データなし
特定標的臓器毒性 (単回曝露)	: 分類できない データなし
特定標的臓器毒性 (反復曝露)	: 分類できない データなし

吸引性呼吸器有害性 : 分類できない  
 40℃で41.4～50.6mm<sup>2</sup>/sの炭化水素であるが、ヒトで鉱油の摂取により肺への吸引を起こし、その結果油性肺炎や化学性肺炎をもたらすとの報告がある。これだけでは判断できないため分類できないとしたが、本製品は決して飲み込んではいない。また、ミストも決して吸入してはいない。皮膚や目にも触れないようにすること。

1.2. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性（急性） : 分類できない データなし  
 水生環境有害性（長期間） : 分類できない データなし  
 オゾン層への有害性 : 分類できない データなし  
 残留性/分解性 : データなし  
 生態蓄積性 : データなし  
 土壌中の移動性 : データなし  
 他の有害影響 : データなし

1.3. 廃棄上の注意

残余廃棄物 : 内容物/容器を国際/国/都道府県/市町村の規則に従って廃棄すること。事業者は産業廃棄物を自ら処理するか、又は都道府県知事の認可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理する。投棄禁止。埋立処分を行う場合にはあらかじめ焼却設備を用いて焼却し、その燃えがらについては、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令」に定められた基準以下であることを確認しなければならない。燃焼する場合は安全な場所で、かつ燃焼または爆発によって他に危害または損害を及ぼす恐れのない方法で行うと共に、見張り人をつける。

汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処理をすること。空容器を廃棄する場合、内容物を完全に除去した後処分する。

1.4. 輸送上の注意

IMDG分類 国連分類 : 非該当  
 国際規制  
 海上規制情報 : IMDGコード データなし  
 航空規制情報 : IATA規則 データなし  
 UN No. : 国連番号 該当なし  
 国内規制 : 下記の輸送に関する国内法規制に該当するので、各法の規定に従った容器、積載方法により輸送する。  
 陸上輸送情報 : 消防法 危険物第4類 第4石油類 危険等級Ⅲ  
 海上輸送情報 : 船舶安全法 非危険物（個別運送とバラ積み運送に於いて）  
 航空輸送情報 : 航空法 非危険物  
 輸送の特定の安全対策 : 容器には下記の内容を表示すること。

- 及び条件 一、危険物の品名・危険等級・化学名  
二、危険物の数量  
三、収納する危険物に応じた注意事項 本製品は「火気厳禁」  
容器が著しく摩擦や動揺を起こさないように運搬する。
- その他 : その他関係法令の定めるところに従う。

#### 15. 適用法令

- 消防法 : 危険物第4類第4石油類 危険等級Ⅲ  
労働安全衛生法 : 通知対象物質（鉱油）  
海洋汚染防止法 : 規制対象物質（油分）  
船員労働安全衛生規則 : 該当（油類）  
毒物及び劇物取締法（PDSCL） : 非該当  
化学物質管理促進法（PRTR法） : 非該当  
下水道法 : 鉱油類排出規制  
廃棄物処理法 : 産業廃棄物規制  
水質汚濁防止法 : 油分排出規制

#### 16. その他の情報

- 参考文献 : 経済産業省「事業者向けGHS分類ガイダンス」  
日本化学工業協会「安全データシート(SDS)作成についての手引き」  
原材料メーカー発行 製品安全データシート
- 改訂日時および改訂情報 : 改訂01 2016年2月29日  
複数項目の記載内容の修正、誤記の修正（11. 有害性情報内 吸引性  
呼吸器有害性）
- 本SDSで使用される用語 : ACGIH - 米国産業衛生専門家会議  
IATA規則 - 国際航空運送協会の危険物規則  
IMDGコード - 国際会場危険物規則  
SDS - 安全データシート STEL - 短時間曝露限界  
TLV - 許容濃度 TWA - 時間加重平均

#### ※注意

製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。